

東日本大震災に対する初期対応（土樋キャンパス）

2011年3月11日 午後2時46分に発生した地震は長時間の揺れが続いたことから、政府地震調査委員会が発表していた「宮城県沖地震」連動型と想像された。



しかし、3月9日（水）に発生した宮城県沖を震源とするマグニチュード7，3の地震は予想されている宮城県沖地震とは関連しないとの専門家の意見もあり避難の判断が遅れた。震度6以上では避難するよりも揺れに対して自衛するだけで精一杯である。約3分以上続いた大きな揺れの後、大学構内に残っている学生の安否確認が最重要と認識していたが、あまりにも大きな揺れに古い建物等への立ち入りは躊躇せざるを得なかった。



学生を駐車場広場に避難させることを優先し学生部職員にその業務を命じた。しかし、数分におきに発生する余震により慎重に行動することが求められた。



地震発生から約10分後、事前に決めていた「指定避難場所」の東北大学テニスコートへ学生を誘導したが、危険と思われる建物を避けて通行することは不可能と判断し、職員を誘導の先頭に立たせ少数のグループで素早く移動させた。



災害対策委員長より、男性職員にキャンパス全館を対象に取り残しの学生や教職員の確認を実施するよう命ぜられた。15時20分には被害者（怪我人）等は発生していないことを確認した。



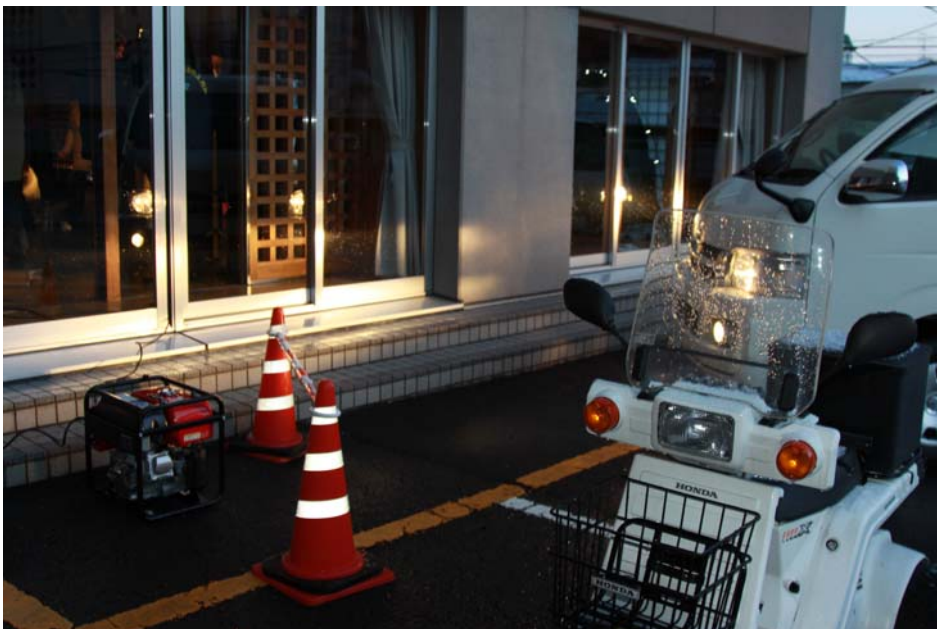
屋外で、避難していた午後3時25分ごろから降雪により体感温度が低下したことにより、避難者への緊急用の毛布の配給を要請した。(約200枚)。



地震発生から約40分後、災害対策委員長より避難現場での解散の指示が出された。しかし、予想以上の揺れにより学生の帰宅困難や自宅アパート等の大規模被害が予想されたため、体育館に臨時避難所を開設することが新に命ぜられ準備に入った。



当初からライフラインの切断は予想されていたことから、学生部室で使用していた「石油ストーブ」を集めて寒さ対策とすることを学生部職員へ指示した。部室より約10台のストーブを準備することが出来、体育館1階（1、138㎡）にシートを敷設し臨時避難所として機能する準備をした。夕暮れが迫り備蓄していた自家発電機を運転させる準備を行うが、運転させる訓練をしたことがなく稼働するまでに時間を要した。2台の発電機による容量で、体育館内の簡易電灯及び大型石油ヒーター3台を稼働させるのに十分であったが、避難者全員の携帯電話の充電には予想以上の時間を要した。



緊急に避難した教職員学生等の支援について、現状で可能な限りの手段を確保することを意識し行動した。「安全確保」「飲食物確保」「排泄場所確保」など課題は多くいずれも優先順位はつけられない状況であり、その場その場の判断を優先した。



応援の教職員には個人の能力で支援可能な用件についてその都度依頼した。
 また、食料や飲料水の保管場所は体育館2階が適当と判断し、備蓄倉庫より移動の際に
 細かな数量を確認し確保した。（別紙）
 大学生協より提供された軽食「チョコレート・お菓子」等は数量が正確に確認できな
 かったことから分配方法は学生委員会に委ねた。



キャンパス内の建物はそれぞれ独立して屋上にタンクが設置してあり、電源が遮断され
 た状況であった。幸い高架タンクに水道水は残っており重力により供給が可能であるこ
 とを確認した。ライフライン復旧まで約3日間を予想しその間を乗り切るため、それぞ
 れ男性用トイレについて使用制限、女子トイレについては無駄な水は流さないことを避
 難者に全員に要請した。また建物によっては安全を確保することが難しいことから、2

号館～8号館まで順次余震を警戒しながら短時間の使用することで乗り切った。夜間の冷え込みが予想された。健康不安な避難者や高齢の方を対象に、課外活動用の車両を準備し、燃料を節約しながら暖機運転を実施したことは有効であった。



避難者数を正確に把握するため、授業出席カードを配布し引き換えに夕食となる乾パンや飲料水を配給し地震当日の宿泊避難者数を確定した。回収した出席カードを基に父母からの安否確認資料とするため、個人のパソコンで入力作業を実施し翌朝までに全避難者（400名）の名簿を作成した。

宿泊した学生部職員の睡眠時間は約1時間であり、避難者より優先し計画的に食事を取り、避難者全体の「安全確保」を最優先とするための作業を行うことが重要と思われた。



翌朝（3月12日）帰宅可能な学生は一旦自宅へ帰り、アパート等の入口に自分が無事であることを告示することを指示した。被害の大きさにより学生が住む町内会単位での行政からの食糧支援は遅れると予想し、食料は可能な限り工夫して調達するよう徹底した。食糧を確保できない学生は大学で支援を受けることや、余震で不安な学生は再度大学に戻り避難を続けるよう連絡し解散した。



備蓄用の食糧の他に生協からカップ麺（400食）の提供を受けていたが当日は避難者全員に供給するには難しいと判断し、避難所運営の教職員及び学生会学生に限り別室で提供した。

参考資料

政府地震調査委員会２００３年５月の地震活動の評価と題する予想される
宮城県沖地震の震度予想図 を掲載するが、今回の東日本大震災ではほぼ同等の震度分布であった。また県内全般に予想震度が１程度上回っている。

